

## 遠隔授業の準備をしながら考えたこと

新型コロナウイルスの感染拡大の「緊急事態宣言」のもと、本学でも5月7日からの授業再開に向け遠隔授業の準備を進めています。大相撲の無観客試合のようなイメージですが、画面を通じて双方向でやり取りができるようになってきました。実験などには向きませんが、授業に遅れが出ないよう工夫して実施したいと考えています。当初は操作が不慣れなことや学生のリアクションを感じ難いことからぎくしゃくするかもしれませんが、トライアル・アンド・エラーしながら改善していくことにしています。

さて、緊急事態宣言後2週間にもなると「三密」を避けるテレワークを導入する企業も増え通勤電車は日を追って空きが目立つようになりました。観光客に続いてビジネス客も激減しホテルや航空会社の経営危機も伝えられています。飛行機が飛ばないことから分かるように燃料消費が減り原油価格は安値を付けています。人が動かないだけでこれほどまでに経済に影響が出るのかと認識を新たにしました。

ところで、今回の緊急事態でテレワーク用のハード設備が充実し、在宅勤務者が増えるとITリテラシーも向上するはずで、日本でも予想より早く情報型・非接触型社会に移行する予感がしてきました。そうするとテレワークをする自宅やサテライトオフィス近くに従来の会社や職場とは違ったコミュニティの形成が必要になるでしょう。例えば自宅近くにテレワーク機器の扱い方の指導やメンテナンスサービスができる電気屋さんの存在とかコマダ珈琲店のような出合いや創造的コミュニケーションを担う場などです。

いずれにしても電子決済の普及や5Gの提供によるバーチャルリアリティの超高画質化、AIと連動した医療の進歩などが確実に進む中で起こった今回の緊急事態は、情報社会の到来を加速することになると考えています。

## フォアキャスティングとバックキャスティング

5月7日緊急事態宣言が続く中、遠隔授業が始まりました。限られた資源で短期間に遠隔授業を開始するという目標があるためフォアキャスティング手法を使い身近な資源を積み上げて準備しました。厳しい条件の下、前向き思考で準備に取り組まれたPTの先生方には頭が下がります。ワクチンや特效薬がない新型コロナウイルスに対しては緊急事態宣言解除後も感染の広がりを長期的に防ぐため接触の機会を減らす「新しい生活様式」が必要なことから7月1日まで遠隔授業を継続する予定です。

今回、緊急事態宣言の継続が決定される際、感染者一人が何人に感染させたかを示す「実効再生産数」が用いられ、早期に終息させるには0.5以下の数値を暫く続ける必要性が示されました。0.5を上回ると感染者数の減少が遅れ重症患者用ベッドが不足して医療崩壊を起こしたり経済活動の制限が続き倒産が急増したりと出口が見えない状態が続くことがデータで示されました。

このように状況を予測しにくい場合には将来の目標を設定して考えるバックキャスティング手法が重要です。まずコロナ禍終結後には希望が持てる未来社会があることを示します。例えば非接触型社会はポスト情報社会と親和性が高いことからAIやIoTを使えば「新しい生活様式」でも生産性が高く快適な生活が出来ることや新たなビジネスが生まれることを具体的に伝えます。次に〇年△月にワクチンや治療方法を確立し本年〇月までに社会経済活動を昨年比80%まで回復させるなどの目標を立てます。その上で10日間連続して実効再生産数0.5以下になれば経済活動を段階的に解除できるなど明確な数字で示し、「5月末までに解除を実現しましょう」と自粛の協力要請をします。

自粛要請と経済再生というトレードオフの関係にある政策を同時に実行するにはフォアキャスティングとバックキャスティングをうまく使い分けることが鍵になると考えています。